

山陰両県への2012年度のU・Iターン者数が計1270人で、過去5年で最多となったことが両県の集計で分かった。東日本大震災以降、高まる安全志向やふるさと回帰の動きが活発となったことに加え、県、市町村が定住対策を充実させたことが奏功したとみられる。

集計は、各市町村が支援を相談した上で移住を把握した人数（両県間の移住含む）。両県の合計は08年度（498人）から右肩上がり、5年間で2・6倍と

山陰U・Iターン 過去最多1270人

県別の内訳は、鳥取県が、年間で11年度603人に次ぎ564人だった。村部は合計270人で、20%増だった。

集計を始めた07年度以降最多の706人で、11年度（504人）と比べ40%増。取市が両県最多の209人。ほかに11年度と比べ大

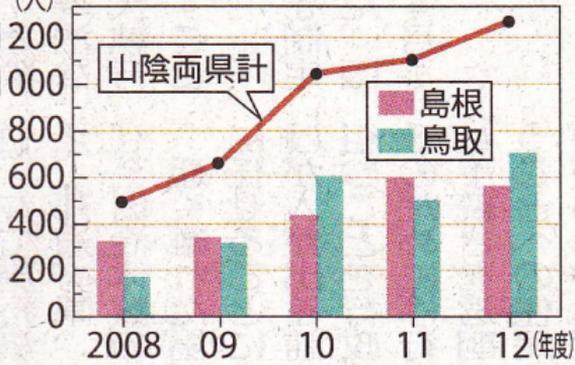
昨年度 定住策が奏功

山町が2人から67人、米子市が4人から61人、智頭町が9人から63人へと大幅に増えた。

鳥根県内の最多は大田市の71人。出雲市65人、西ノ島町45人、邑南町42人が続いた。11年度107人の松江市が75%減の27人で県全体の数字は下がったが、町

また、相談者、移住者とも20〜40代の子育て世代が目立つことなどから、東日本震災を機に全国的な安全志向の高まりも背景にあるとみている。

山陰両県のU・Iターン者数の推移



の数字は下がったが、町